

平成 27 年度 新潟農業・バイオ専門学校 学校関係者評価委員会 実施報告

新潟農業・バイオ専門学校 教務部

日時 平成 27 年 11 月 7 日 (土) 17:00-18:00

場所 ホテルイタリア軒 会議室 弥彦

学校関係者評価委員会 出席者

森岡 三男 弁天橋自治会 会長 (近隣住民)
後藤 孝之 株式会社 日本フードリンク 代表取締役社長 (関連企業)
渡辺 弘友 新潟県立植物園 副参事 (関連団体)
岡村 遥香 株式会社 フレッシュはな正 (卒業生)
米野 輝太 新潟ビール醸造株式会社 (卒業生)
西村 静子 在学生保護者
業務都合により欠席
阿部 莉奈 アルバイト (卒業生)

新潟農業・バイオ専門学校 (参加者)

副校長 阿部 貴美、教務部長/就職部長 秋山 正之、事務局長 多賀 祥治
農業経営科主任 斉藤 順、農業経営科講師 渡辺 大輔
バイオテクノロジー科講師 岡野 康弘、バイオテクノロジー科講師 峯岸 希一
園芸デザイン科講師 増田 和人

■委員会内容

- ① 平成 26 年学校運営・教務実績報告/平成 27 年度前期教務・学校運営実績報告
- ② 平成 26 年度 内部評価委員会 評価報告
- ③ 平成 26 年度 学校関係者評価委員会への事前アンケートの記載内容に関する報告
- ④ 報告を受けての意見交換

■学校関係者評価委員会委員からの意見 (「→」は当校よりの回答)

・学校理念・目標：学校理念、目的、育成人材像については具体的な形でオープンキャンパス、保護者会にて伝わっているようだ。開校 5 年目となり、徐々に地域に根差した学校となっているようだ。
→食、農、園芸という新潟県ならではの産業に学校、学生共に積極的に関わっているのが実になってきている。農業経営科においては、新潟大学、農業大学校との連携によって県主体となって「夢づくり・人づくり事業」に参画している。

・学校運営：昨年と比べて教育内容の外部への発信は拡大されたようである。
→前年度からの改善点として、A B i o 通信の複数回の発行、SNS の活用など外部発信を積極的に行っている。また、食・農・緑に関わる職業人を育てるという理念に即した教育活動は継続されている。

・継続的に懸念される基礎学力不足の学生対応としてはどのようなことがあげられるか。
→① I C T を使った入学前教育の実施 (平成 25 年度入学生より継続実施)、② 学科ごとに対象者を限定した補講の実施を実現している。特に、②の補講実施についてはバイオテクノロジー科にて積極的に行っており、効果も見られている。他の学科への拡大を図っていきたい。

・教育環境：教室、実習設備、実習場といった教育環境の整備は改善されている。実習地の確保も十分であると考えます。

・社会貢献・地域貢献：新潟市、新潟県、近隣小学校、地域の N P O 法人などとの連携が図られている。A B i o 祭の実施など、近隣住民との交流を積極的に努めている点は評価できる。新潟の地域活性のために若者の教育に努めてほしい。今後の学校の発展を期待したい。

以上